

国際理事会報告

2019年度ICD国際理事会報告

ICD日本部会理事・国際理事、ICD国際会長 千田 彰

2019年度ICD国際理事会が、イタリア・ミラノ (Milan, Italy) のStar Hotels, Rosa Grand, Milanoで2019年10月28、29日に開催されたので概要を報告する。ミラノはイタリア北部に位置する歴史的な建造物や街並みを多数もつ世界の観光地でもある。ミラノがあるロンバルディア州は、新型コロナウイルス感染のイタリア最大感染地域となり、テレビニュース画面に頻回にわたりミラノ市街の封鎖状況が紹介された。とくにそのシンボルであるミラノの大聖堂（ドゥオーモ）は、ニュースのトップ画面として常に登場した（写真1、2）。

理事会に先立ち、27日には執行部委員会（EC：

Executive Committee）が開催された。また同じく27日には、ヨーロッパ部会イタリア地区（District）と国際本部との共催で、市内のDeutsche BankにおいてWelcome Receptionが開催された。ドイツ「銀行」での宴会とは？と奇異に感じたが、実際には博物館・ホールであった（写真3）。

国際理事会（International Council）の会議はSession 1とSession 2に分けられ、各々28日、29日に会場ホテルで早朝8時30分から終日開催された（写真4）。Session 1では、各部会あるいは国際理事から書面または口頭による報告と質疑が行われ、午後は恒例に従いStrategic Thinking Session（戦略的な



図1 ドゥオーモ（Duomo）正面でSecretary General, Dr. John Hintermanと筆者



図2 ドゥオーモ内部



図3 Deutsche BankでのWelcome Reception



図4 国際理事会



図5 Alfa Romeo MuseumでのCouncil Dinner

考察セッション)が開催された。この間、昼食後にはBreak-out Session A, B(委員会ごとに分散して会議がもたれる)が各々約50分行われた。

Session 1終了後は、Council Dinner (Reception)がAlfa Romeo Museumで行われた。Alfa Romeoとは、あのアルファロメオであり、車好きの諸氏には垂涎のロメオの名車が展示されている博物館である。名車の側での宴会はさすがヨーロッパならではの趣向といえる(写真5)。

29日にはSession 2が前日のSession 1と同様に開催され、前日の理事会での議事に対して質疑と採決が行われた。2019年度は国際会長Bettie MacKaigの思い入れでECメンバーが中心となって策定したICDの会員増加策、人道援助活動の強化策などとその具体的活動方針が提案され採決が行われた。これらはECメンバーが分担して“Letters from the Future”



図6 恒例の参加者全員での記念撮影

を書き、これをもとに将来に向けて、戦略的な構想(Strategic Plans)を策定して示されたものである。筆者も人道援助について将来から手紙を書いたが、「夢物語」では済まないのでAction Plan案作成までに1ヶ月ほど悩んだ。

昼食前には恒例により参加者全員で記念撮影し(写真6)、また昼食後には執行部から次期執行部への引き継ぎセレモニーが開催され、Bettie MacKaigから不肖私に国際会長職が引き継がれた(写真7)。引き続いて新執行部が就任に際しての宣誓を行なった(写真8)。その後GVF(Global Visionary Fund)委員会、新EC委員会が開催され、国際理事会の公式行事を終えた。

なお、2019年度国際会長のDr. Bettie MacKaigは2020年1月に急逝された。本頁にてあらためて哀悼の意を表します。



図7 前会長Dr. MacKaig(本年1月に急逝された)から筆者への国際会長引継ぎ



図8 新執行部の就任宣誓(Taking the oath of office)